



創ろう！みんなのさくま通信 News Letter

回覧

第7号
2026年3月20日発行

作成者：浜松山里いきいき応援隊
舟橋 卓也

文化展に出展させて頂きました！

気がつけば、山いき隊に就任して2年目。あっという間の1年でした。

1年目は、色々と考えはしたものの、形に残すことができないまま終わってしまい、不甲斐なさの残る1年間だったと感じています…

そんな中、今年は文化祭をきっかけに新しいチャレンジを始めようと決意しました。文化祭への出展を決意したきっかけは、新年早々に知人から「小さな本を自分で作って出版してみたら？」という提案を頂いたことでした。その言葉に背中を押され、「まずは、地域の文化祭に出展してみよう」と思い立ちました。

今回の文化祭では、昨年撮影した「川合花の舞」の写真や、飯田線沿線の風景を、浦川・山香・城西の文化祭で展示させて頂きました。実際に出版してみると、足を止めてくださった方と直接お話しできる時間がとても楽しく、作品を通じて人とつながる喜びを感じました！

この出店をきっかけに、今年は次のようなことに挑戦していきたいと考えています。

- ・ 佐久間町の民話や民俗芸能、風景をテーマにした本づくり
- ・ 週に1回ずつ、佐久間町の各地域で飲み物と自作の本を並べた小さなテント出店
- ・ 地域外で行われるマルシェに出店し、佐久間町の魅力を紹介

小さな一歩ではありますが、これから少しずつ形にしていきたいと思っています！



出展した写真集の表紙①
「佐久間の民俗シリーズ 川合花の舞写真集」



出展した写真集の表紙②
「飯田線写真集 秘境列車の旅路」

【新企画】インタビューしてみました！（第一弾：恩田浩希さん）

実を言うと…この企画は、今回インタビューに応じてくださった恩田浩希さんの助言をヒントに生まれたものです。恩田さんは、「これまでの経験」や「周囲とのご縁」を非常に大切にされる方であり、今の私の協力隊としての活動に大きな影響を与えています！

～インタビュー内容～

——珈琲店を開業するに至ったきっかけは？

「元々コーヒーが好きでイベント等に出店していましたが、イベント主催者さんやご縁があり、現在使用しているヤマヤ醸造さんの建物の一部を借りて店舗営業を始めました。現在は会社を退職して、珈琲店のオーナーとして新しいチャレンジをしています。建物内には、グreekヨーグルトの店舗ももう1店舗入っています。」

——これまでは、どんな職種を経験してきましたか？

「最初の1年間は介護福祉士、その後は飲食店の調理員、自動車販売店の営業を経験しました。コーヒーの出店は、仕事をしながら副業のような形でやっていました。どれにも言える話ですが、これまでの経験あってこそ今の今だと思っています。接客や仕込みなどの経験は、今の活動に活きていると感じています。」



恩田さんが手がけるコーヒーのコンセプトは、「その日の気分に合わせて、味わいをコーディネートできる一杯」。
豆の個性や抽出の工夫を通して、飲み手の感情や時間に寄り添う——
そこには、コーヒーの新しい可能性に挑み続ける、恩田さんならではのこだわりが秘められています。

——恩田さんの周りにいる人とは、どこで出会いましたか？

「前職の上司やイベント主催者など、これまで自分と活動を共にしてきた人々です。これについては、ご縁あってのものだと思っています。メンバーそれぞれ自分には一面があり、みんなで支え合える頼もしい仲間たちです。」

——恩田さんの、佐久間町への想いについて聞かせてください。

「中学時代まで生まれ育った地なので、恩返ししたい気持ちはあります。今の自分の活動を通して集客力を身につけることができれば、将来的には佐久間町で地域が盛り上がるようなことができるかもしれないと思っています。そのためにも、まずは今できることを積み重ねていきたいですね。」

恩田さんは昨年、自身の店舗となる珈琲店「chord coffee（コードコーヒー）」を開店しました。現在は店舗営業やイベント出店、卸売などを通じて、お客さん一人ひとりに寄り添い、その日の気分や好みに合わせて味わいをコーディネートできる一杯を提供しています。

私が恩田さんと出会ったのは、佐久間町佐久間の夏祭りと川合花の舞での出店でした。そこで頂いた一杯は、これまでのコーヒーのイメージを覆し、人生で初めて「ブラックコーヒーを美味しい」と感じた瞬間でもありました。今では私自身も豆からコーヒーを淹れるようになり、恩田さんの店で豆を買ってコーヒーを楽しんでいます！



かつてはイベント出店のみだったが、現在は中央区高林一丁目にある「ヤマヤ醸造」の跡地を活用し、店舗を構えて営業中。



ヤマヤ醸造の跡地のオーナーは、イベント主催者でもあり、この場所での店舗営業を恩田さんに提案したそうです。

同じ建物では、オーナー自身もイタリアン料理やスイーツを手がけており、恩田さんのコーディネートコーヒーとの相性も抜群。

奥三河の紹介④：ダムの貯水率がゼロに！？ 深刻な水不足に悩む東三河



先週に撮影した、宇連ダムの貯水湖である鳳来湖の光景。かつてダムによって消滅した集落や橋の跡が、現在は目に見える形となっています。2019年に貯水率がゼロになりましたが、この時は梅雨を控えた5月の状況のため、今年は2019年よりも深刻な状況になることが懸念されます。

水は、私たちが生きていく上で欠かせない大切な資源です。天竜川を中心に自然豊かな環境に恵まれた佐久間町の皆さんにとって、水はとても身近だと思える存在ではないでしょうか。

しかしその一方で、隣接する東三河では深刻な水不足が発生しており、東三河の各地で「節水」への協力が呼びかけられています。特に問題となっているのが、新城市鳳来地区にある宇連ダムの水不足です。

東三河の各地に水を供給する豊川用水では、水源である宇連ダムの貯水率が、3月11日の午前0時時点でわずか1.2%と極めて低い状態が続いています。このため、現在は農業用水・工業用水で40%、水道用水で20%の節水が実施されています。

豊川用水には、天竜川の佐久間ダムからの導水路もありますが、水を回してもらえるのは5～9月に限られるとのことで、天竜川の水には依存できないものとなっています。

～連絡先～

メール ▶ tkyyamaiki0429@gmail.com（前回から変更しました）

Instagram ▶ [@tkygraph_429](https://www.instagram.com/tkygraph_429)（個人アカウント）

[@tenryu_sakuma](https://www.instagram.com/tenryu_sakuma)（佐久間山いき隊アカウント）

Instagramのアカウントはこちらからも追加できます！

